

# 小さな音符キーノート

牧  
草  
泉

『放課後の音符』を読んだ  
あんな青春があつたのかな？  
塵芥の過去を掘り返していく  
「あつ あつた」  
ほんの一握りの青春が  
領きながら話を聞いてくれた  
あの人の笑顔が  
何を話したのか  
もう記憶にはないけれど  
茶屋から眺める  
梅の花は華やいで  
春を迎える準備をしていたっけ

「あなたの過去だって素敵じゃない？」

そんな声が耳元で聞こえた

今まで目を背けてきた

忌まわしい過去が

緩解され昇華されていく

そうか これでいいんだ

そうなんだ

過去ってすばらしいんだ

# さらば 夕夏・i n・d b

なにげなく  
ネット・サーフィンをしていたら  
J・ポップが聞こえてきた  
ドキッと モニターに吸い寄せられた  
ボーカリストとバンドの絶妙なハーモニー  
今まではない軽快なリズム  
観客に媚びない 透明感のある  
そして 感情豊かな歌い込み  
ジョーン・バエズ 村上春樹文学が  
脳裏を過ぎった  
すべてが進化してるんだ  
残り少ない時間を費やして  
夕夏・i n・d bに陶醉した  
ふと 夕夏の口からもれ出した  
「ファイナル・ライブを楽しんでね」

と  
い  
う  
セ  
リ  
フ  
あ  
れ  
っ  
そ  
れ  
っ  
て  
本  
当  
？  
び  
っ  
く  
り  
仰  
天  
そ  
れ  
も  
二  
年  
前  
今  
か  
ら  
売  
り  
出  
し  
か  
と  
思  
っ  
て  
た  
の  
に  
俺  
っ  
て  
四  
半  
世  
紀  
ほ  
ど  
遅  
れ  
て  
る  
ん  
だ  
な  
悔  
し  
い  
っ  
！

# 卒業式のあとで

先生が

「回れー右」と言った

目の前に母親たちがいた

すっぴん 薄化粧 厚化粧

さまざまだったが

そこには等しく年輪を重ねた顔があった

みんな勇ましい戦士に見えた

「大学の合否で

人生がそれほど劇的に変わることはないぞ」

先生の声が雷のように響き渡った

生徒も母親たちもみんなげらげら笑った

初めて同窓会に出た

誰もが頭は薄く 白髪になっていた

時間は平等に流れていた

友人と分け隔てなく会話ができた  
安堵の気持ちがいよぎった

あの時先生は

「オレのために言ってくれたのかも」  
ふとそう思った